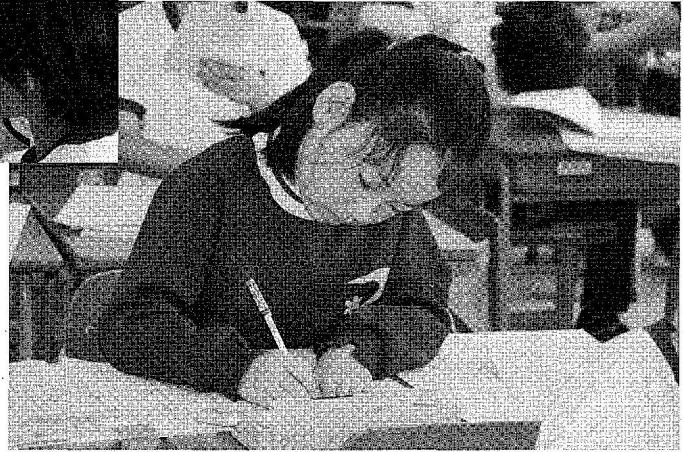
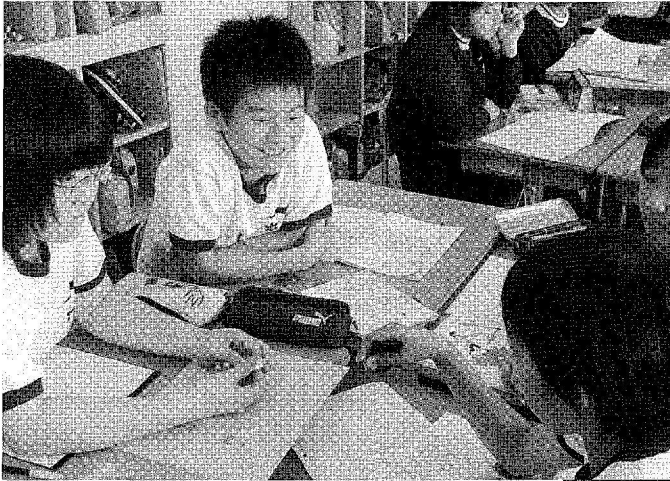


# 国語科の研究

佐藤 浩一・多田 和幸



## キーワード

深い思考 対話的活動 観点の獲得

## 主張

国語科では、「言葉や対象を深くとらえ、理解や表現の高まり、広がりを求め続ける子ども」を目指す。

本研究では、理解や表現の高まり、広がりに向かう深い思考を促すために「自他の理解や表現の異同を明確にすること」に着目した。

話し合う内容を絞って話し合いの対立点を明確にしたり、教材文のよさや子どもたちが実際に表現したものについて検討したりする対話的活動を位置づける。すると子どもは、理解や表現の新たな観点を獲得し、理解を深めたり表現を高めたりしようと思っていく。

このような学びの中で、読み方や書き方に対する見方を更新し、自分の読み取りや表現を再構成することで、より深い理解や豊かな表現をつくり出そうとする姿を明らかにした。

# I 言葉や対象を深くとらえ、 理解や表現の高まり、広がりをもとめ続ける国語科

## 1. 国語科で求める子ども

求める子ども  
言葉や対象を深くとらえ、理解や表現の高まり、広がりをもとめ続ける子ども

「意欲・態度」  
考えを深め、よりよい理解や表現に高めようとする

「中核となる学力」  
正確に理解し、適切に表現する力

国語科で求める「言葉や対象を深くとらえ、理解や表現の高まり、広がりをもとめ続ける子ども」とは、自分をはじめにとらえた理解や表現で満足するのではない。他者と交流する中で、より深い理解や豊かな表現をつくり出そうとし続ける子どもである。

子どもは自分なりの理解や表現ができるとそれで満足し、再度思考して深めたり高めたりしようとしなないことが多い。それは、どうすれば自分の理解や表現が高まるのか、具体的な見通しをもつことができなかつたり、他者と交流しても自分の理解や表現の高まり、広がりを実感することが少なかつたりしたことに原因がある。

理解や表現の高まり、広がりに向かうためには子ども自身が、「これを使うとよさそう」と理解や表現の新たな観点のよさに気づき、見通しをもつことが必要である。また、理解や表現の高まり、広がりを実感できるようにするためには、子ども自身が、観点を獲得したことを自覚することが必要である。

そこで、本研究では、理解や表現の新たな観点のよさへの気づきや獲得したよさの自覚を促すために「自他の理解や表現の異同を明確にすること」に着目した。

自他の理解や表現の異同を明確にするために、話し合う内容を絞って話し合いの対立点を明確にししたり、教材文のよさの検討や実際に表現したものについて相互評価をししたりする対話的活動を位置づける。すると、子どもは、理解や表現の新たな観点を獲得し、「それまでの自分の理解や表現はこれでよかったのか」と自ら問い返す。はじめのとらえと比較したり関係づけたりして、理解を深めたり表現を高めたりしようと思っていく。

このような学びの中で、読み方や書き方に対する見方を更新し、自分の読み取りや表現を再構成することで、より深い理解や豊かな表現をつくり出そうとし続ける姿を目指す。

## 2. カリキュラム改善の視点

### (1) カリキュラム改善の方法

単元の設定に当たり、子どもの生活・行事・他教科等の学びに関連づけたり、子どもの実態に合わせた価値あるテーマ設定をし、学ぶ意欲が高まるようにする。

また、「話すこと聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の能力関連を図りながら、単元の中で身についた言語能力が、連続して次の単元で生かされるように単元配列を行う。

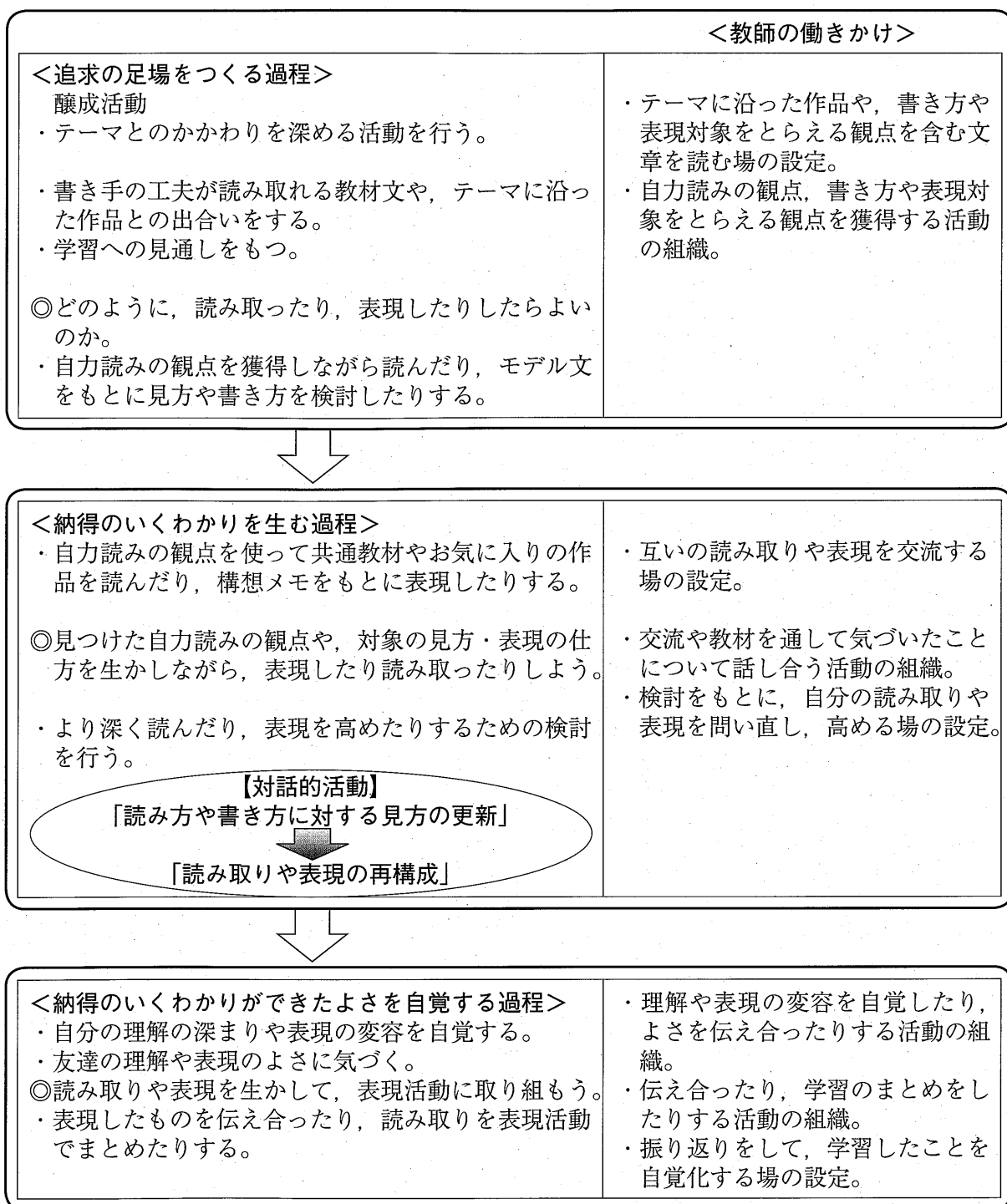
### (2) カリキュラムの段階性

幼・小・中の連携で目指す「読解表現力：多様なテキストを理解・評価しながら読み、思考を働かせて表現する力」を次のように段階的に位置づけた。

段 階	読解表現力：多様なテキストを理解・評価しながら読み、思考を働かせて表現する力の段階性
低学年	内容・表現様式に関心をもって読んだり、経験と結んで自分の考えを分かりやすく表現したりする。
中学年	表現の効果をとらえて、自分の考えをまとめながら読んだり、相手や目的に応じて表現したりする。
高学年	様々な観点から、自分の考えを明確にして読んだり、目的や条件を踏まえて筋道立てて表現したりする。

### 3. 授業改善の方策

<求める国語科の学びを具現するための学習過程>



### 4. 評価法

- (1) 各過程における理解や表現を比較し、子どもの理解・対象への見方、表現の変容を評価する。併せて、ノートへの振り返りの時間を確保し、学びの様相を見とる。
- (2) 学習内容の定着状況を、時間を置いたパフォーマンステストの実施により見とる。10分間作文の時間等で、テーマ・対象を変えて、獲得した表現方法がどのように発揮されるかを見る。
- (3) 単元を超えて、日常生活や次単元での学びの様相から、「はたらき」として表れる学びを評価する。

## Ⅱ－1 実践

### 第2学年

### 「わたしのそだてているやさいはね」

1. 「読み」での学びを生かし、仲間と交流しながら、対象のとらえ・表現を変容させる学び  
「読み」での学びを足場とし、「対象のとらえ」を深め、「表現」を高めていく学びを目指す。

「書くこと」を中心とした「読むこと」との関連指導では、「書く」ために「読む」という意識が弱く、そのために筆者の表現対象のとらえ方や表現方法への着目が不十分であったり、「読むこと」での教材が「書くこと」のモデルとして児童の実態に合わなかったりすることが多かった。表現を高めていくためには、「読むこと」の学習に「書くこと」をつなげるのではなく、「書くこと」の学習としての「読み」を位置づける必要がある。子どもたちが、筆者の「対象のとらえ方」や「書き方」を書く目的に沿って読み取り、表現対象を見つめ、見直し、とらえを深めながら自分の表現を創っていく学びを目指したい。

本単元では、植物の様子を説明した文章やモデル文を読み、表現対象の見方や表現方法を学ぶ。そして、仲間とかかわりながら、繰り返して野菜を観察して表現対象をとらえ直し、表現を高めていく子どもの姿を求めた。子どもたちは、表現対象に対する見方を深め、書き方に対する見方を更新し、表現を再構成する学びの中で、「読み」での学びを「書く」中で自分に引き寄せてとらえ、納得のいくわかりへと高めるのである。

## 2. 単元の構想

### (1) 単元の目標

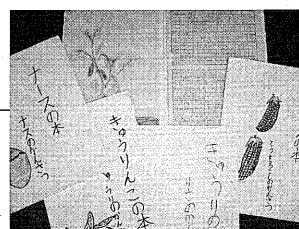
様々な観点からよく見たり比べたりして野菜の様子をとらえ、内容のまとまりを考えて順序よく書くと、植物の様子が分かる文章になることを理解し、見つけたことを生かして詳しく伝える観察文を書くことができる。

### (2) 追求の構想 (全14時間)

#### 1次 教材文「たんぼぼ」・モデル文を読もう (8時間)

◎筆者の植物の見方や書き方を読み取り、自分の文章に生かして書こう。

- ・筆者の見方や書き方に着目しながら、教材文「たんぼぼ」を読もう。
- ・モデル文A (教師自作のトマトの本、5月部分) を提示し、よさを検討することにより、観察の仕方・書き方を足場となる知識として獲得し、本作りへの意欲を高める。



#### 2次 教材文のよさを生かして、野菜の観察紹介文を書こう (4時間)

◎構想マップをもとに、野菜の様子が詳しく伝わる文章を書こう。

下書きをもとに交流して、より詳しく分かりやすい文章にしたいと意欲を高める。

- ・野菜を更に見直し、より詳しくて分かりやすくなるように書こう。

<対象のとらえを見直し深め、表現を高める>

モデル文B (モデル文Aにつけ足すカード) の提示

表現意図を伝える対話的活動

} → 「更新」「再構成」

- ・下書きを完成させ、お互いの文章を読み合い清書しよう。

#### 3次 完成した文章のよさを伝え合おう (2時間)

◎お互いの文章のよさを伝え合おう。

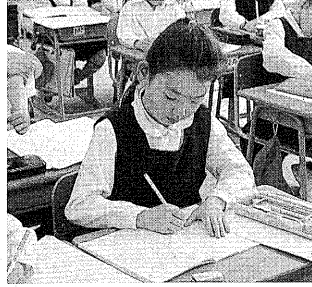
- ・家の人に読んでもらい、感想をもらおう。学習を振り返ろう。

### 3. 授業の実際

#### (1) 野菜の本をつくりたいな

「たんぼぼが、たくさん咲いていたよ。」

「畑では、何をつくっているのかな。」生活科の探検で、地域の様子に目を向け、野菜の栽培にも興味をもってきた子どもたち。



ナスのなつちゃんをう  
えました。大きくいつば  
いなくてほしいです。  
水やりをわすれずにお世  
話します。大きくなつて  
くれてありがとうという  
気持ちで食べたいです。

国語の時間に、教材文「たんぼぼ」（東京書籍）を読み始めると、優斗さんが、「ぼくもこういう本が作りたい。」と言いはじめた。「他にもこういう本を作っていきたいと思っている人いる？」と問いかけると、雅子さんも元気よく手を挙げた。

雅子さんは、感受性が豊かで、素直に感動したり仲間の言葉を敏感に受け止めたりできる反面、自分の伝えたいことを遠慮してしまうところもある。そんな雅子さんには、与えられた形式に沿って表現することで満足せず、自分らしく書きたいことを広げながら表現を高めてほしいと願った。そして、「文章のまとまり」に対する見方を、「まとまりには同じ種類のものが入る」から、「まとまりには、同じ種類のものがつながりながら入る」へと更新する姿を期待した。

モデル文A  
五月  
トマ子のはっぱを見たら、  
わきがぎざぎざしていました。  
一ばん大きなはっぱは、わた  
しのおやゆびと同じくらい  
大きかったです。  
虫めがねの見かたで見たら、  
小さい黄色い花が二つさい  
ていました。そのとなりに、つ  
ぼみが、三つついていました。  
においをかいでみたら、草の  
においでした。  
くきをさわったら、ざらざ  
らしていました。

自分たちの育てている野菜の本をつくりたいと考えてきた子どもたちは、教材文を読んで、「根の長さが百センチメートルもあったこと。」「花びらが百八十まいもあったこと。」

(雅子さんが見つけたモデル文Aのよさ)

- ・ 葉っぱをさわってみている。
- （葉っぱはさわっていないが）
- ・ 形を指で比べている
- ・ 数を数えている
- ・ においをかいでいる。
- ・ 茎をさわってみている。

その他

となりのことを書いている（場所）

などに驚きながら、筆者が「たんぼぼ」をよく見てとらえていることや、根や花・茎などのまとまりで順序よく書いていることを読み取っていった。

「先生も野菜の本を作ってみただよ。」

トマトを取り上げた本の例を提示すると、子どもたちは、興味深そうに見つめた。5月のモデル文Aを読み、6月、7月の絵を見せると、「オー、すごい」「・・・実がなってる。」と声があがった。「みんなもこんな風に本を作っていきますか。」と声をかけると、雅子さんも力強くうなずいた。

先生の文章を見ると、  
細かくて、詳しい文  
章を書いていると思  
いました。だから、わ  
しがつくる野菜の本も  
詳しくて細かい本に  
したいです。（ノート）

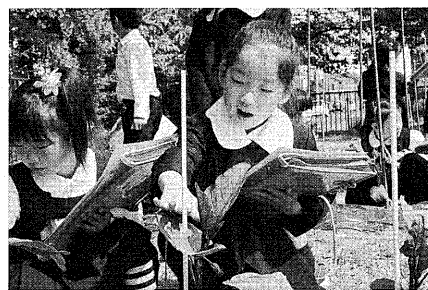
そこで、追求問題を「◎文章のよいところを見つけて、自分の文章に使えるようにしよう。」と設定し、モデル文Aのよさを検討する活動を組織した。雅子さんは、「さわっている・比べている・数えている・においをかいでいるなど」のよさを見つけた。

こうして、子どもたちは、説明的文章やモデル文を読み、虫めがねの見方や五感を使って観察するとよいこと、「花・茎・葉」などのまとまりをつくって順序よく書くとよいこと、構成マップの書き方などを、観察文を書く際の足場として獲得し、本作りへの意欲を高めていった。

(2) 野菜をいろいろな見方で見て書いたよ

子どもたちは、自分が育てている野菜を観察して、構想マップを作った。

ナスを育てていた雅子さんは、葉っぱに手をかざしたり、茎をさわったりしながら、見つけたことを構想マップに記していった。「読み」で獲得した観点を生かしながら野菜の様子をとらえている姿である。



(手と葉っぱの大きさを比べる雅子さん)

雅子さんの五月の下書き

わたしが育てている野菜は、なすの「なっちゃん」です。なっちゃんのはっぱをよく見たら、ガラガラしていました。一番大きいのは、わたしの手より大きかったです。はっぱはつるつるしています。

花を見てみました。むらさき色の花です。つぼみを見たら、二つついていました。さくまでとても時間がかかると思いました。くきを手でさわってみたら、ふわふわとガラガラが少しまざったみたいでした。くきは、はっぱのところまでつづいていました。わたしが少しさわっても、何もうごきませんでした。くきは、じょうぶだと思えました。

今日はマップをつくってみて、さわったり、比べたりして、ナスがどういふ植物か分かりました。今度やってみようとは、野菜の本を詳しくするために、マップをよく見て、自分の野菜の本を、詳しくわかりやすくしてみたいです。

(ノート)

(3) 新しい発見を加えたらもっとよい本になりそう

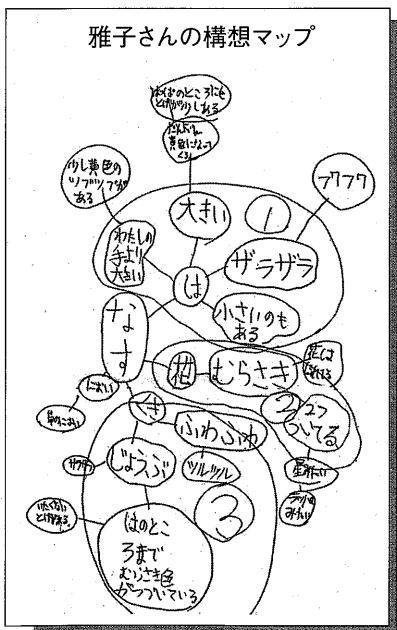
下書きを終えた子どもたちは、お互いの文章を読み合い、見つけたよさを付箋紙に書いて伝えあった。雅子さんも「読み合いっこ」で、「先生の文を生かしていいね。ていねいで、くわしくて、におい、形、大きさ、つぼみの数が書いてあっていいね。(一部略)」と付箋に書き、「真美さんは、つぼみが何個とか、何々が何個とか書いてあってよかったです。」と発言した。ここでも獲得した観点を意識していることが伺える。



(友達と読み合いっこをする雅子さん)

交流活動の後、児童の記述からいくつかの発見を紹介すると、「自分も見つきたい。」と新たな発見に意欲を見せた子どもたち。早速畑に向かい、自分の新たに見つけたことを、前に見つけたこと区別ができるように、青ペンで構想マップにつけ加えていった。

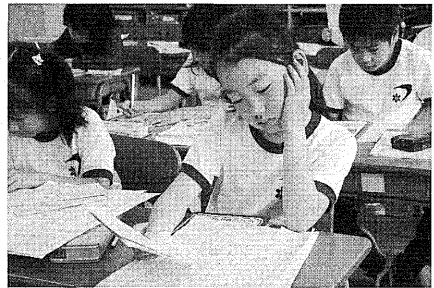
友達の「レモンみたいなにおいでした。」のような発見をしたと考えた雅子さんは、花の様子をじっと見ている。「どこのことを書きたいと思っているの?」と聞くと、ペンでナスの花を指す雅子さん。しばらく考えていると、となりにいた綾子さんが、「星みたいな形かな。」とつぶやいた。「わたしも今星みたいって言おうとしていたんだよ。」と雅子さん。マップに「星みたい」と書くが、まだ満足できない様子で花を見つめている。「別の方からも見てみたらいいんじゃない。」と声を掛けると、畑の反対側に回り込み、再び花を見つめる。しばらくして、「先生、向こうから見たらね、ラッパみたいだったんだよ。」



嬉しそうに話しに来た。表現対象である野菜を見直しより深くとらえようとしている雅子さんである。雅子さんは、葉っぱの色にも着目して新たな発見をし、さらによりよい文章にしたいと意欲を高めてきた。

そこで、観察して新たに発見したことを複数のカードに書き、動かしながら書き加える位置を決める場を設定した。雅子さんは、構想マップのメモをもとに5枚の付け足しカードを書き、しばらく考えて、「ラッパのような花」の発見の位置を決めた。「うまくつながりそう?」と聞くと、首を傾げる雅子さん。「自信ないの?」と尋ねると、「うん。」と答えた。葉っぱについての発見である①と③のカードも、葉っぱのまとまりで書くとよいことには気づいているようだが、なかなか位置が決まらず悩んでいる様子の雅子さん。しばらく考えて書き入れる場所を決めたが、繰り返しカードと下書きとを見比べて見直している。

今日は、付け足しの青(青ペン)での記述)が十二個も書けたので、今度はそれを生かして、詳しくてわかりやすい本を作りたいです。(ノート)



(付け足しカードを読んで考える雅子さん)

自分の決めた位置に自信がもてていない状況だと判断し「なぜそこに入れたのか」理由を伝えながら仲間と読み合う活動を組織した。意図を意識しながら読み合うことで、位置の決め方を自分なりに見出しながら表現してほしいと考えた。

雅子さんの五月の完成文章

わたしがそだてている野菜は、なすの「なつちゃん」です。なつちゃんのはっぱをよく見たら、ザラザラしていました。一番大きいのははっぱは、わたしの手より大きかったです。③はのさきに、少し黄色のツブツブがありました。①大きくなって、下のはが黄色くなつてきました。②ははっぱはつるつるしています。

花を見ました。むらさき色の花です。②花をよく見たら、少し下の方にたれていて、「ラッパみたいだな」と思いました。つぼみを見たら、二つついていました。さくまでとても時間がかかると思っています。くきを手でさわってみたら、ふわふわとザラザラが少しまざったみたいでした。くきは、はっぱのところまでつづいていました。わたしは少しさわっても、何もつかいませんでした。⑤さわってみたら、いたくないとげがありました。④くきは、じょうぶで、少しザラザラしていました。においをかいでみたら、草のにおいでした。(波線は付け足しカード、番号は記入順)

友達に「①のカードは葉っぱのことを書いて、③のカードも葉っぱのことだから、葉っぱのところに入れた。」と説明する雅子さん。すると「③のところはいいけど、①(を@の次に入れるの)は、後からくっつけたみたいで少しおかしいよ。」と言われ、もう一度考え始めた。



(友達とカードを読み合う雅子さん)

「3つの文(③①@)に書いたことは全部違うことだから、これでいいのかなあ。」とつぶやく雅子さん。教師が「全部違うことなの?」と聞くと、また下書きと付け足しカードとを読み比べ、③の次に①を入れた。「どうして③の次に①にしたの。」と尋ねると、「どちらも黄色のことで、③は小さい時で、①は大きくなってからのことだから。」と答える雅子さん。「葉っぱについてのまとまり」だけでなく、「そのまとまりの中の色や順序をとらえ、文と文の意味のつながり」にも目を向けて書き加えることができた。

「まとまりには同じ種類のものが入る」から「まとまりには、同じ種類のものが、似ている部分や時間の順序などでつながりながら入る」へと更新された姿である。

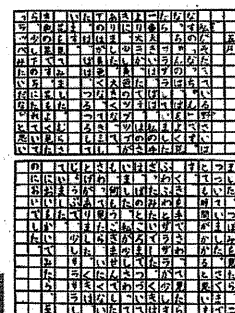
改めて仲間を読んでもらおうと、「その場所でいいと思うよ。」と言われ、「よかった。」とうれしそうな雅子さん。「花・茎・葉っぱ」としてのまとまりをつくって書くという既習の知識と、内容の共通性や時間的な順序など、文と文のつながりを考えることとを関係づけ、新たに見つけた野菜の様子を加えながら、表現を再構成した。

(4) やさいがどんどん大きくなって、すてきな本も完成だ

5月のページを完成させた雅子さんは、お母さんやおじいさんから感想を書いてもらい、うれしそうにしていた。また、仲間からも「みんなが書いていないところまで詳しく書いてあっていいよ。」とほめられ、自分の観察文のよさを自覚していった。

子どもたちは、6月、7月と観察を続け、野菜の本を完成させていった。6月には、5月との比較や思ったことの表現を加えるるとよいことを新たな観点として加えた。更に7月では、5月6月の観察を読み返し、時間の経過と野菜の変化を考えて表現した。雅子さんは、5月の2倍ほどの字数で7月の本を書き上げた。

「たんぽぽ」の読み取りで、小さくまとまったマップを書いていた雅子さん。なすの観察を繰り返していく中で、構成マップには、新たな発見がどんどんつけ加えられていった。対象を見直しながらモデル文の書き方に固執することなく表現を広げ、よりよい文章に高めていくことの価値をとらえはじめてきている雅子さんである。



七月

なつちゃん、私が育てているナスの名前で。

五月のなすは、はじめなえをつえた時、「大きくなるかしんばいな。」と思っていました。実がまだなっていないで、はも小さくてせもひくかったけど、五月の途中で花がさきました。花は、うすむらさきで色で、つやつやしています。五月は、ほとんど小さい花やばばかりでした。とても小さくて「かわいいな。」と思いました。

六月のなすは大きいか、中ぐらいいな。」と思っていて「いろいろ考えるとおもしろいな。」と思いました。

七月のなすは、実が中ぐらいいになりました。二三個ぐらいいはとれました。はつばは、五月より大きくなりました。花はかかれて「実のへたになるのかな。」と思いました。「これから実がたくさんなるのかな。」と思いました。せいちよつする時を見たときに、「すごいな。」と思いました。五月よりいぶん大きくなったような気がしました。七月のなすはたくさんなるといいなと思います。

七月のなすは、実がたくさんなつて、たくさんとれました。はもとても大きくなつて、せもとても高くなつていました。七月は五月や六月とちがつて、とても大きくなりました。実はとてもおいしそつで、食べたら少しながつたけど、とてもおいしかったです。

(後略)

4. 実践を振り返って

- 子どもたちは、「読み」を通して、内容（表現対象）への興味関心を高める。そして、表現への着目からよさとしてとらえた観点を、自分の表現に取り入れていく。
  - 構成マップや下書き、付け足しカードなど、表現された具体物を用い、表現意図を伝えながら対話的活動を行うことは、表現の高まりにつながる「更新」「再構成」をうながす。
  - 獲得した観点の意義や学習の成果への自覚を促し、学びの価値を意識づける働きかけを探っていく必要がある。
- (多田 和幸)



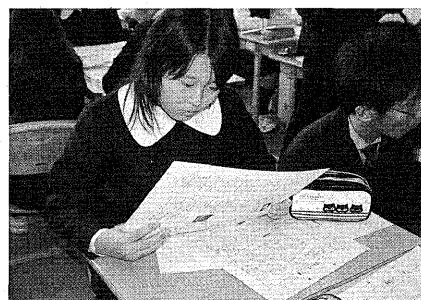
## Ⅱ—2 実践の概要（読むこと）

### 第6学年 「受け取ろう！考えよう！夢をもって生きる人からのメッセージ」

#### 1. 自力読みの観点を獲得して内容を深くとらえ、理解の高まりを求め続けようとする学び

本単元では、1学期の総合学習「夢をもって生きる」との関連を図りながら、「マザー・テレサ」（東京書籍5年下）「宮沢賢治」（東京書籍6年下）「イーハトーブの夢」（光村図書6年下）「夢に向かってーモンゴメリー伝記ー」（学校図書6年上）「手塚治虫は生きている」（平成12年版学校図書6年上）「田中正造」（教育出版6年下）「みずぎさがしの旅」（教育出版5年上）などの教科書教材を取り上げる。子どもたちが、これらの伝記を読み、その中から自分のお気に入りの伝記を選ぶことを通して、読む意欲を高めていく。

本単元では、一人一人が深く思考することで、深く伝記を読み、理解することを願った。まず、共通教材「マザー・テレサ」について意味マップを書いて自力で読み取った後、仲間との対話的活動を組織する。その中で、その後の追求の足場となる「一番心に響く言葉・作品の構成」等の「自力読みの観点」の用い方を獲得する。次に、これらの観点をを用いて自分のお気に入りの伝記についても自力で読み取った後、グループや学級全体で仲間との対話的活動を組織する。その中で、「一番心に響く言葉」には、作者のどんな思いが込められているのか、そのためにどんな「作品の構成」で作者は伝えようとしているのかを考えていく。これらの学習活動を通して、自力読みの観点的な用い方等の「読み方に対する見方」を更新し、自分のお気に入りの伝記についての「読み取りを再構成」する。その中で、自力読みの観点を獲得して内容を深くとらえ、理解の深まりを求め続けようとする姿を期待する。



#### 2. 単元の構想

##### (1) 単元の目標

「一番心に響く言葉」「作品の構成」を考えると伝記の内容がよくわかることを理解し、主人公の生き方や信念のすばらしさについて感想を深めながら読むことができる。

##### (2) 追求の構想（全14時間）

###### 1次 「マザー・テレサ」を読んで、自分のお気に入りの伝記の読み方を知ろう（6時間）

・ 作品を読み、お気に入りの伝記を選んだ理由を話し合おう。→学習計画立て

◎ 「貧しい人は美しい」という言葉には、テレサのどんな思いが込められているか。

- ・ 意味マップを使った自力読み→対話的活動による考えの交流をしよう。
- ・ 自力読みの観点的な用い方を振り返ろう。



###### 2次 自分のお気に入りの伝記について考えよう（6時間）

・ 自分のお気に入りの伝記を詳しく読もう。→読んだ感想①を書こう。

◎ お気に入りの伝記の「一番心に響く言葉」には、主人公のどんな思いが込められているか。

- ・ 意味マップを使った自力読み→対話的活動による考えの交流をしよう。
- ・ 感想②を書いて、感想①と比べてみよう。→自力読みの観点的な用い方を振り返ろう。

###### 3次 伝記で知った生き方のすばらしさをお家の人へ伝えよう（2時間）

◎ これまで読んだ伝記についての感想を書こう。

- ・ この学習で学んだ自力読みの観点「文章構成」を生かして、感想を書こう。
- ・ 学習全体を振り返ろう。

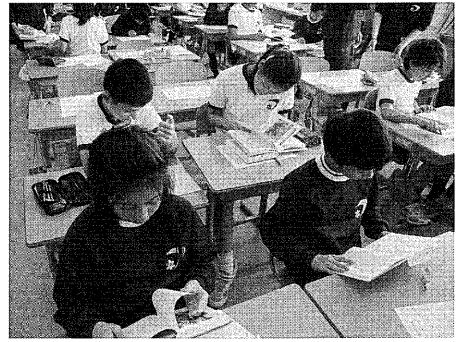
### 3. 授業の実際

#### (1) 共通教材で自分のお気に入りの伝記を詳しく読む方法を知りたい

智夫さんは、作品について仲間の感想を聞きながら、自分の考えと合わせて考えていくことができるよさがある。この学習を通じて、自分の読みの根拠をしっかりともち、こだわりをもちながら読み深めてほしい。その中で、伝記を深く読むことのよさに気づいてほしいと願った。

子どもたちに、教科書教材となっている伝記を配布するとすぐに、配布された作品を集中して読みはじめた。

智夫さんは、「鉍毒のおそろしさを命をかけて訴えているところがすごい。」と発言し、「田中正造」を自分のお気に入りの作品として選んだ。子どもたち一人一人が自分のお気に入りの伝記を決めた後、智夫さんは、「伝記の文にかくされている意味を知りたい。」と発言した。他の子どもたちも「伝記の内容をもっと詳しく知りたい。」と発言した。そこで、子どもたちと学習の進め方について話し合った。



＜伝記作品を読む子どもたち＞

①自分のお気に入りの伝記を詳しく読むために、共通教材「マザー・テレサ」で読み方を学習する。

※意味マップを書く。→仲間とグループや全体で話し合う対話的活動を行う。

②自分のお気に入りの伝記を詳しく読む。※意味マップ→対話的活動

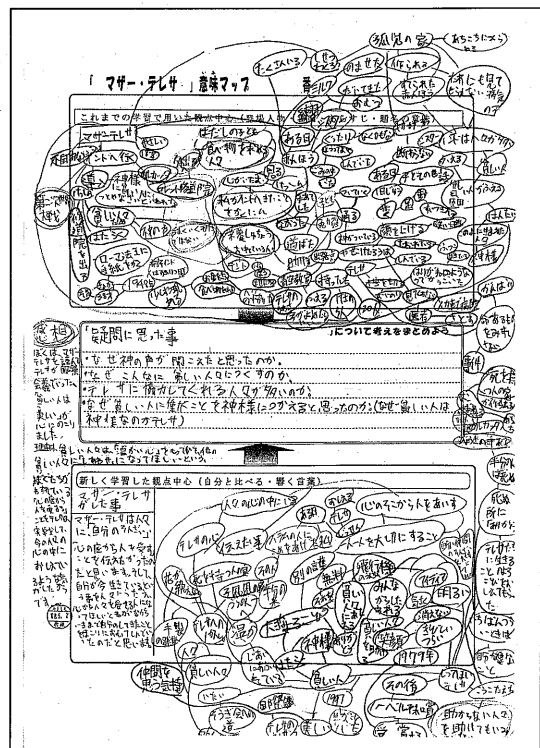
③学習のまとめとして感想をまとめ、お家の人に伝える。

まず、共通教材「マザー・テレサ」を読み深めるために「自力読みの観点一覧表」を配布した。これまでの学習で用いてきた観点である「登場人物・場面・あらすじ・題名の意味」と、この学習で新たに学習する観点「自分との比較・一番心に響く言葉」から意味マップにたくさん書き込みをした智夫さん。他の子どもたちも教科書を繰り返し読み返しながら、意味マップに書き込んだ。

その後、「マザー・テレサ」の感想を話し合うと、麻美さんが「なぜ貧しい人は美しいと言ったのか。」と発言した。「他の疑問もこのことを考えるとわかりそうだ。」と他の子どもたちも賛成した。そこで、以下の追求問題を設定した。

◎「貧しい人は美しい」という言葉にはテレサのどんな思いが込められているか。

まず、4人グループでの対話的活動を行った。智夫さんは、「貧しい人々の心の温かさを表している。」「自分たちの米が足りなくても、別の家族にも分け与えるというやさしさが、貧しい人々の心の中にある。」と発言した。



＜智夫さんの「マザー・テレサ」の意味マップ＞

学級全体での話し合いを行うと、「貧しい人は自分のことだけでなく、他の貧しい人のことも考えている。」「貧しい人なのに温かい心がある。」「貧しい人しかもっていないものがある。」「優しさ、思いやりの心が美しい。」「わずかな米を分け合って支え合っていることが美しい。」という意見が、次々と子どもたちから出された。

これらの発言を聞いた後、智夫さんは、「テレサは、貧しい人がやっているから貧しい人に代わってその賞を受けている。だから、普段着の白いサリーを着て出席したんだ。」と発言した。この時間の振り返りを次のようにノートに書いた。

今日、仲間の意見を聞いてみて、ぼくは、「温かい心」や「一人一人を大切にすること」が「貧しい人が美しい」と思っていたけれど、仲間と考えを交流して、貧しい人は今までやってきたことを貧しい人はやっているということだと思った。

この時間の話し合いの中で、図書室にある「マザー・テレサ」について書かれた本の内容をもち出してきた子どもがいた。その発言に対して和之さんは、「作者によって重要なところが違うのではないか。」と発言した。そこで、次の時間に、他の伝記を読んで、比べてみることにした。

東京書籍版「マザー・テレサ」	学研版「マザー・テレサ」
・テレサのしたこと順序が違う。 ①青空教室 ②孤児の家 ③死を待つ人の家 ・「貧しい人が美しい」と東京書籍版に書いてある。	①青空教室 ②死を待つ人の家 ③孤児の家 ④希望の家 ・「貧しい人が美しい」とは書いていない。

この他にも、たくさんの違いを見つけていた。これらの話し合いを通じて、子どもたちは、書き手によって、書く順序や内容が違うこと、書くポイントが違うことが、「作品の構成」に表れていることに目を向けていった。

智夫さんは、次のようにここまでの学習を振り返ってノートに書いた。

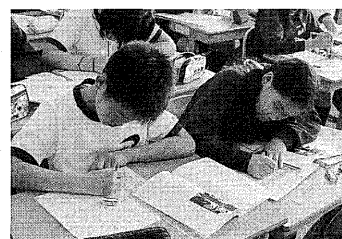
「作品の構成」を考えることで、テレサが何を伝えたいのかや筆者の考えがわかった。「一番心に響く言葉」で偉人や筆者の伝えたいことがわかった。「作品の構成」を考えることで、作者が伝えたいことと「一番心に響く言葉」が見つけやすくなって、作品の深い意味がわかるようになった。次は、伝記「田中正造」について、みんなと話し合っ、て、「一番心に響く言葉」を決めていきたい。

自力読みの観点「一番心に響く言葉」と「作品の構成」を関連させて考えることで伝記を深く読めるという足場となる見方・考え方を獲得し、自分のお気に入りの伝記を学習することへの意欲を高めた智夫さんである。

## (2) 意味マップと対話的活動で自分のお気に入りの伝記を詳しく読もう

学習の進め方に立ち戻りながら、教師が、どのように学習していきたいかを尋ねると、子どもたちは、『マザー・テレサ』と同じようなやり方で読んでみたい。」と発言してきた。

そこで、お気に入りの作品について「マザー・テレサ」で役立った自力読みの観点をいながら意味マップに自分の感想をまとめてみることにした。智夫さんは、「一番心に響く言葉・作品の構成・



<意味マップを書く智夫さん>

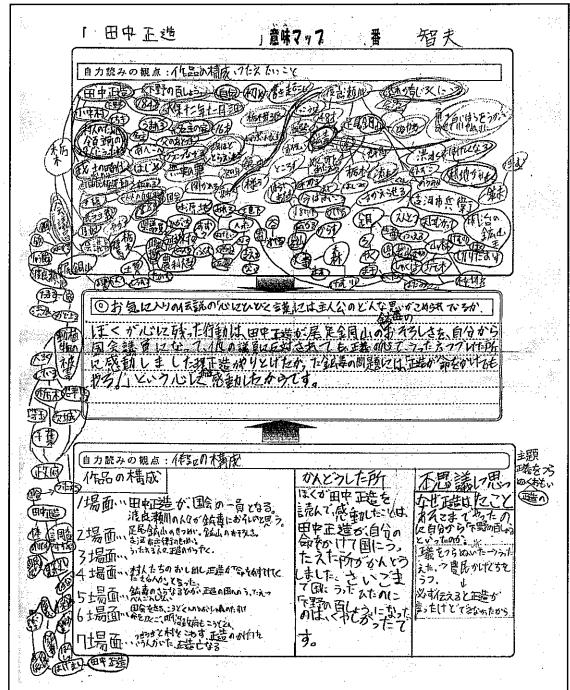
感動したところ・不思議に思ったこと」の4つの観点から自分の考えを意味マップに書き込んだ。

その後、自分がお気に入りの伝記を読むために用いた自力読みの観点について話し合った。すると、智夫さんは、「作品の構成。そして、一番心に響く言葉で、作品の伝えたいことや作品のよさがわかった。」と発言した。他の子どもたちは「一番心に響く言葉を中心に、段落を考えていくと、内容がよくわかる。」と発言した。そこで、追求問題を、以下のように設定した。

◎お気に入りの伝記の「一番心に響く言葉」には主人公のどんな思いが込められているか。

意味マップの中央部分に自分の読みを書いた。智夫さんは、この時間の学習を下のように振り返った。

ぼくは、「作品の構成」と「一番心に響く言葉」とをつなげて、心に響く言葉を探した。次回は、みんなと話し合っ、心に響く言葉を決めていきたい。



<智夫さんの「マザー・テレサ」の意味マップ>

(3) 同じ作品を選んだ仲間と対話的活動をしてアドバイスし合おう

智夫さんは、グループの仲間と、心に響く言葉には、主人公のどんな思いが込められているかについて話し合った。

正造は命をかけて戦ったのに国会議員をやめたら、農民から陰口をたたかれた。わからなくなってきた。(知世)

とにかく山や川をもとに戻してさえしてくれればいいという正造の思いだと思う。(智夫)

「山や川…」と書いてあるところがどういう意味が分からない。どうして命をかけて守ろうとしたのかな。(智夫)

「一番心に響く言葉」をもとに主人公の思いを考えるための話し合いが混乱している状況だと判断した。教師は、グループの中で「正義をつらぬくことがいいことだ」という主題に目を向けている司さんの考えを取り上げ、まず、この作品の主題について話し合うように促した。

すると、智夫さんや司さんはグループで次のように話し合った。

陰口をたたく農民もいた。正造に感謝した農民もいた。(司)

この時代は、死ぬ覚悟がなければ直訴なんかできない。(智夫)

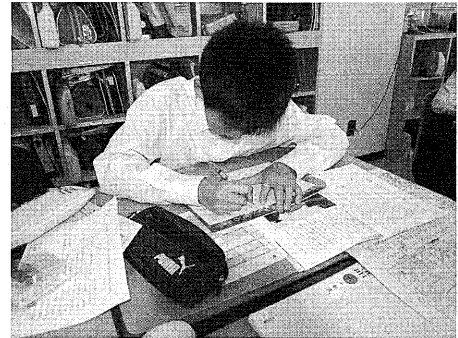
「正造は石のように動かない」という言葉には、深い意味がありそう。直訴状の時は農民も応援してくれていた。だから、「必ず」訴えると正造は思ったのだと思う。(智夫)

司さんにつけ足し。「貴くことが大切」ということを表したのだと思う。P64に書かれている直訴は罪が重い。それでもやり通したところがすごい。(智夫)

その後、グループで話し合った内容について学級全体で話し合った。「グループの仲間の理由を聞いて、今までは理由がはっきりしなかったけれど、一致しているところは、『正義をつらぬくところ』だと思った。理由は、天皇への直訴など重い罪になっても必ずやり遂げようとしたことで、農民の心に残っていると思うからだ。」と発言した智夫さん。仲間の発言を聞いた後、「正造の伝えたいことがわかったことで自分の疑問が解決した。」と発言した。

この時間の振り返りで智夫さんは次のように記述した。

今日ぼくがグループの人と話し合っ、正造が正義の心をもっていたことを伝えたいことがわかった。話し合う前は、理由があまり分らなかったけれども、今日は話し合っ、正造があんなにがんばる理由がわかった。農民に「必ず鉱毒のありさまを政府に訴えかけます」と言って、「命を預けてくれないか」とも言ったので、農民を裏切ることができなかったのだと思った。



<学習を振り返る智夫さん>

「一番心に響く言葉」をもとに、仲間の作品の主題について話し合う中で、「『一番心に響く言葉』と『作品の構成』を考えると主人公の思いがよくわかる」から「『一番心に響く言葉』『作品の構成』と『作品の主題』を関連させて考えると主人公の思いがよくわかる」と、読み方に対する見方を更新し、田中正造のすばらしさについての読み取りを再構成した智夫さんであった。

#### (4) 自分のお気に入りの伝記や他の伝記を読んで考えた学習を振り返ろう

その後、図書室にある伝記を読んだ。学習のまとめとして、この学習で学んだことを下のよう  
に作文に書いた。この学習で学んだ自力読みの観点の「文章構成」を生かし、起承転結を考  
えながら書くことにした。書いたものを保護者に読んでもらいコメントをもらった。

田中正造とエジソンのすごいところ  
智夫

田中正造は、自分の命を投げ出して足尾銅山の鉱毒問題に取り組んだところ、エジソンは失敗してもあきらめないところがとてもすばらしいと思った。ぼくは、田中正造とエジソンの伝記を読んでみて、すごいところや心に響いた言葉が二つある。

一つ目は、田中正造の農民への思いだ。つまり、足尾銅山の鉱毒問題に、自分の命をかけて問題を解決しようという思いだ。きっとぼくは、農民たちのために自分の自由や命を全て捧げる田中正造のような生き方ができな  
いと思う。でも、田中正造はそれをやり続けたのだ。田中正造は自ら「下野の百姓」と言い自分の一生を農民のために捧げたところがすばらしいと思うし、そんな生き方をした田中正造がとてもすばらしいと思った。

二つ目は、エジソンの「成功するにも失敗するにもどんどん華々しくやりなさい」という失敗してもあきらめない、くじけない心の強さにとても感動した。エジソンは、子どもの時から好奇心旺盛で、何に対しても挑戦し続けることに驚いた。何度も何度も失敗しても、エジソンは失敗を恐れずに白熱電球を作り続けた。エジソンの有名な言葉に「天才とは九十九パーセントの努力と一パーセントのひらめきである」という言葉がある。ぼくは、エジソンの伝記を読んでみて、この言葉の意味がとてもよくわかった気がする。そして、いつかぼくも多くの発明をして、この世をよくしたいと思った。そのために、ひらめきを生かせる努力をすべきたと強く思った。

僕は、田中正造とエジソンの伝記を読んで、「失敗を恐れず何事も真面目にやる思い」が共通することだと思った。ぼくは、この学習で学んだことを次の学習にも、大人になっても生かしていきたいと思った。

<智夫さんが書いた作文>

智夫さんはこの学習全体を以下のようにプリントに記述して振り返った。

グループの仲間と伝記「田中正造」を読み深めたり、図書室の中からたくさんの伝記を読んで考えたりしたことは、とても楽しかった。家の人に学習のまとめを読んでもらって褒められてうれしかった。自力読みの観点で役に立ったのは、「一番心に響く言葉」と「文章構成」と「主題」を関連させたことだ。そうすると主人公の思いがとてもよくわかった。この学習を次の学習に生かしていきたい。

自力読みの観点を活用し、自分なりの解釈にこだわって追求した智夫さん。仲間と自分の読みを交流したり、保護者に自分の学習したことを伝え、保護者から評価してもらったりしたことで自力読みの観点をを用いることのよさを自覚し、学んだことを次の単元で生かしていこうと意欲を高めていった智夫さんである。

#### 4. 実践を振り返って

- 更新を図るには、その子に応じた更新のポイントを教師が明確にプランしておくことが大切である。智夫さんは「グループ対話→教師の働きかけによるグループのメンバーの気づき（主題）の顕在化→グループ対話」と学習を進める中で読み深める姿が見られた。
- 「意味マップへの記述→グループ対話→気づいたことの意味マップへの書き足し」という流れで意味マップに書き込んだが、書き足しは僅かであった。思考の方略としての意味マップを自分の読みのベースとして位置づけるだけでは不十分である。常に話し合いでの気づきを書き込めるように、意味マップの中央部分を付箋紙のような形式にするなど、自分の思考の過程がわかるように工夫することが必要である。

（佐藤 浩一）

### Ⅲ 成果と課題

＜成果＞ 更新を図るためには、モデル文の提示や対話的活動を位置づけると共に、その子に応じた働きかけを具体的にプランすることが大切である。

その子の「更新」が図られるためには、対話的活動を通して新たな学習内容に対する気づきが必要である。その際、意味マップや構想マップ、発見したことのカード操作など、その子の思考の過程が自覚できるようにしたり、対話的活動で自他の考えの異同に気づきやすくするために話題を整理してあげたりするなどの働きかけが大切である。

＜課題＞ 納得のいくわかりができたよさを自覚する過程での活動の工夫が必要である。

問いの解決を通しての自分の学び・成長の自覚が不可欠である。学びの振り返りや評価を大切にする。単元に位置づけられた言語活動や観点を活用した意義をより意識づけていくための方法を蓄積していきながら、改善を図る必要がある。

#### ＜主な参考文献＞

塚田 泰彦編・著 2005 「国語教室のマッピング 個人と共同の学びを支援する」 教育出版

藤森 裕治 2007 「バタフライ・マップ法－文学で育てる〈美〉の論理力－」 東洋館出版